

4.3.3 標高差分図分析

サンドリサイクルを実施した前後の測量成果をもとに、測線間の土砂変化量を算定し、サンドリサイクルによる投入土砂と海底の土砂変化量の変動について、比較分析を行った。分析の結果、明らかとなった事項を以下に示す。

【分析結果】

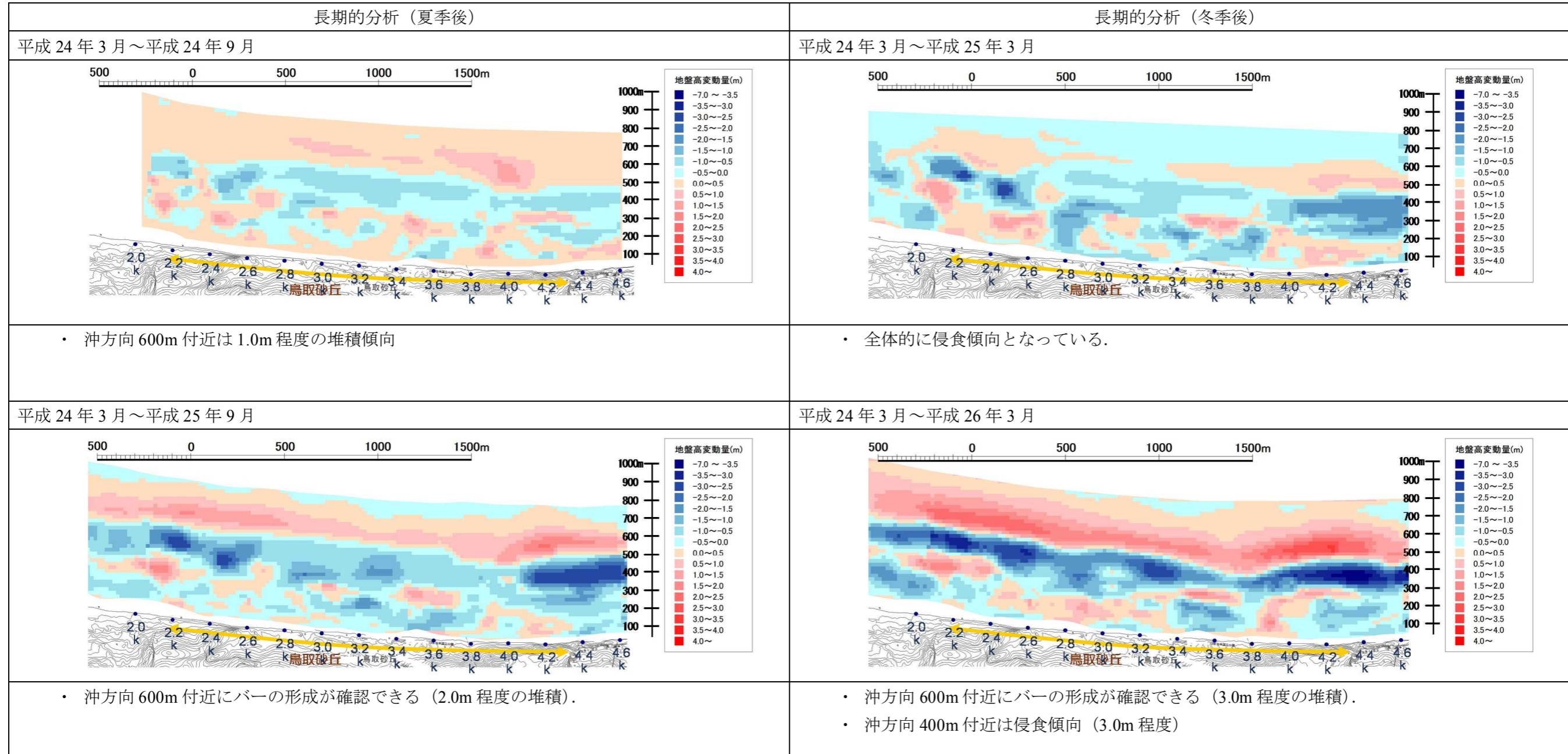


図 4.3.11 標高差分図

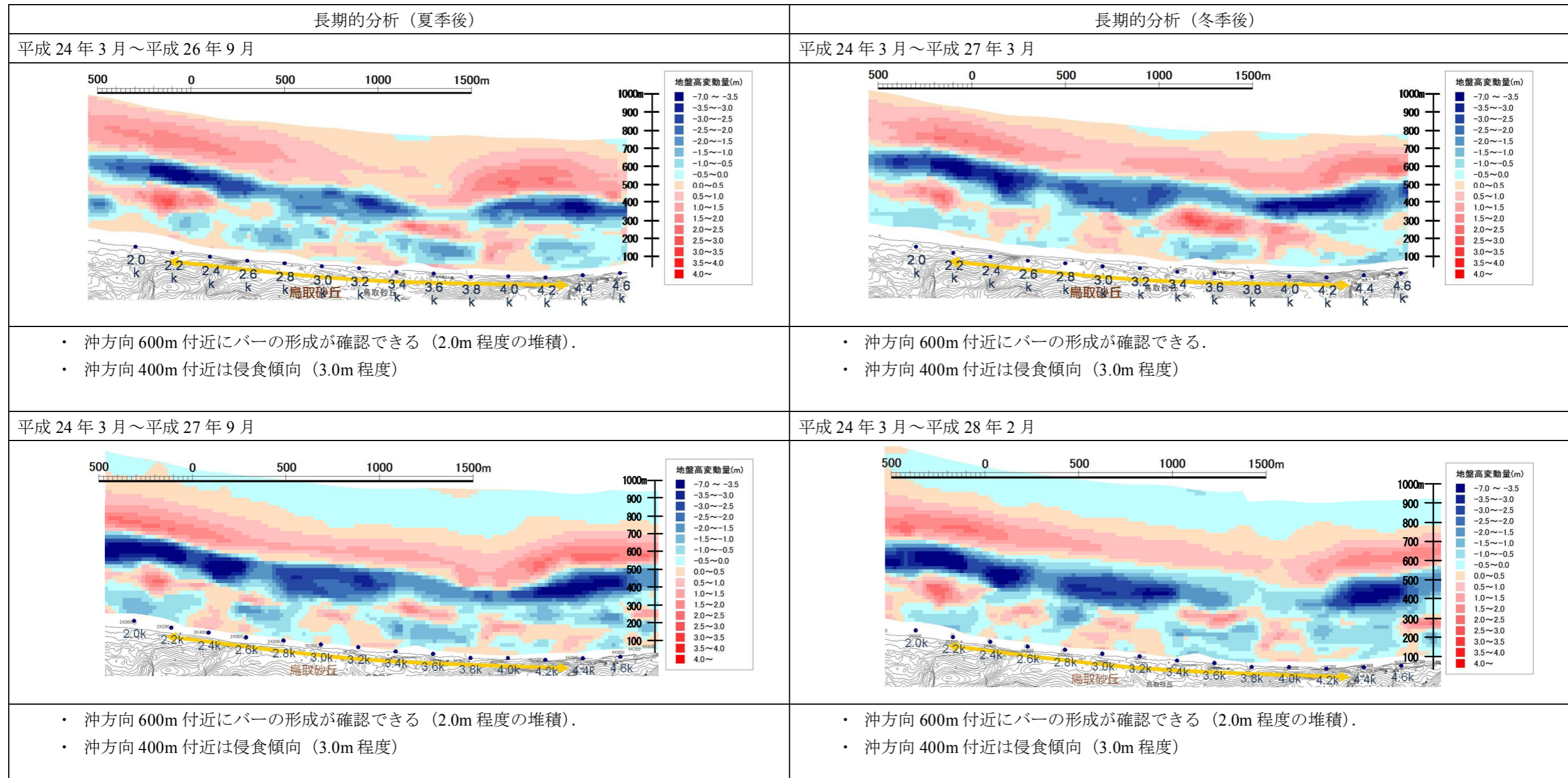


図 4.3.12 標高差分図

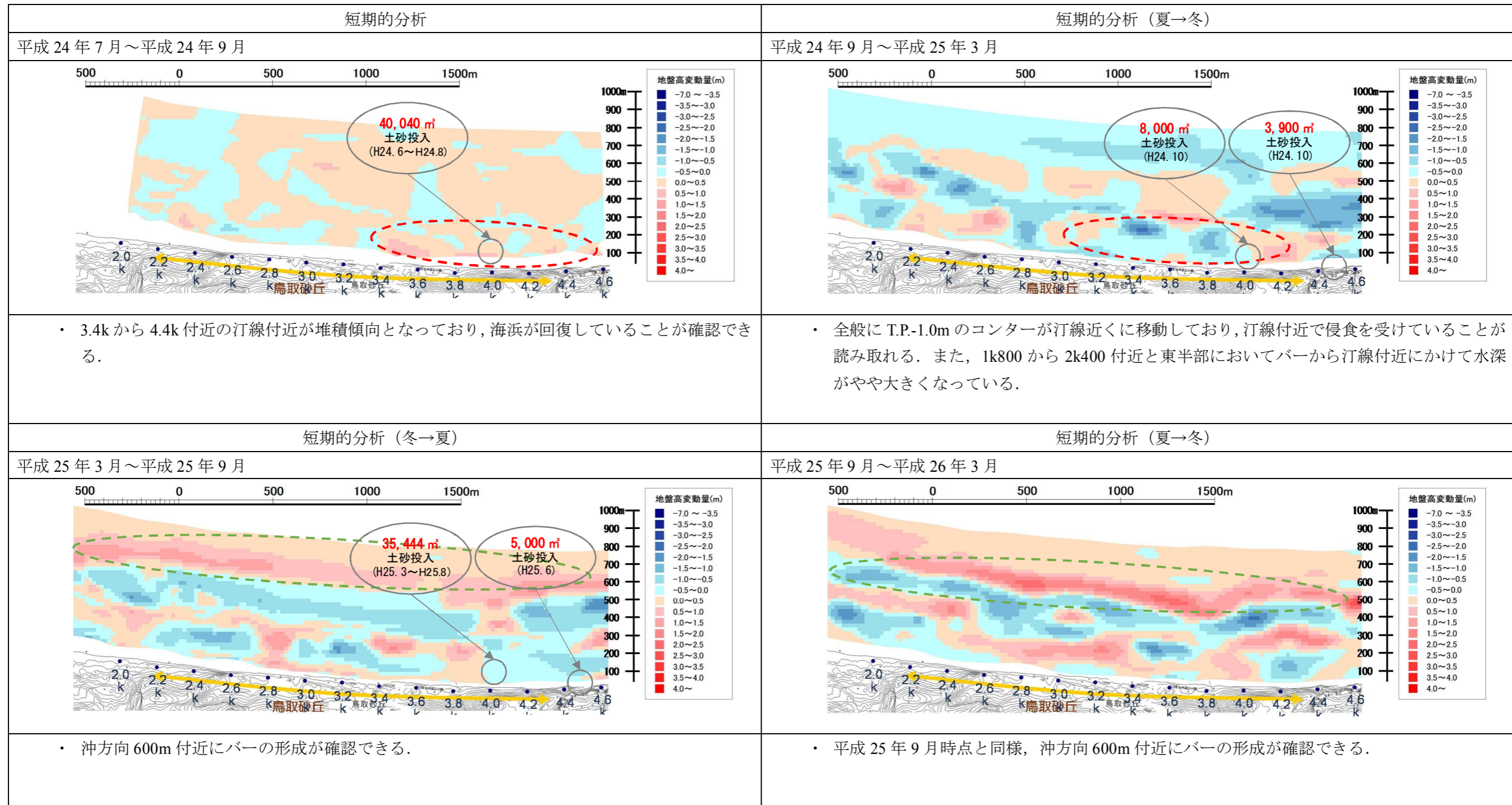


図 4.3.13 標高差分図

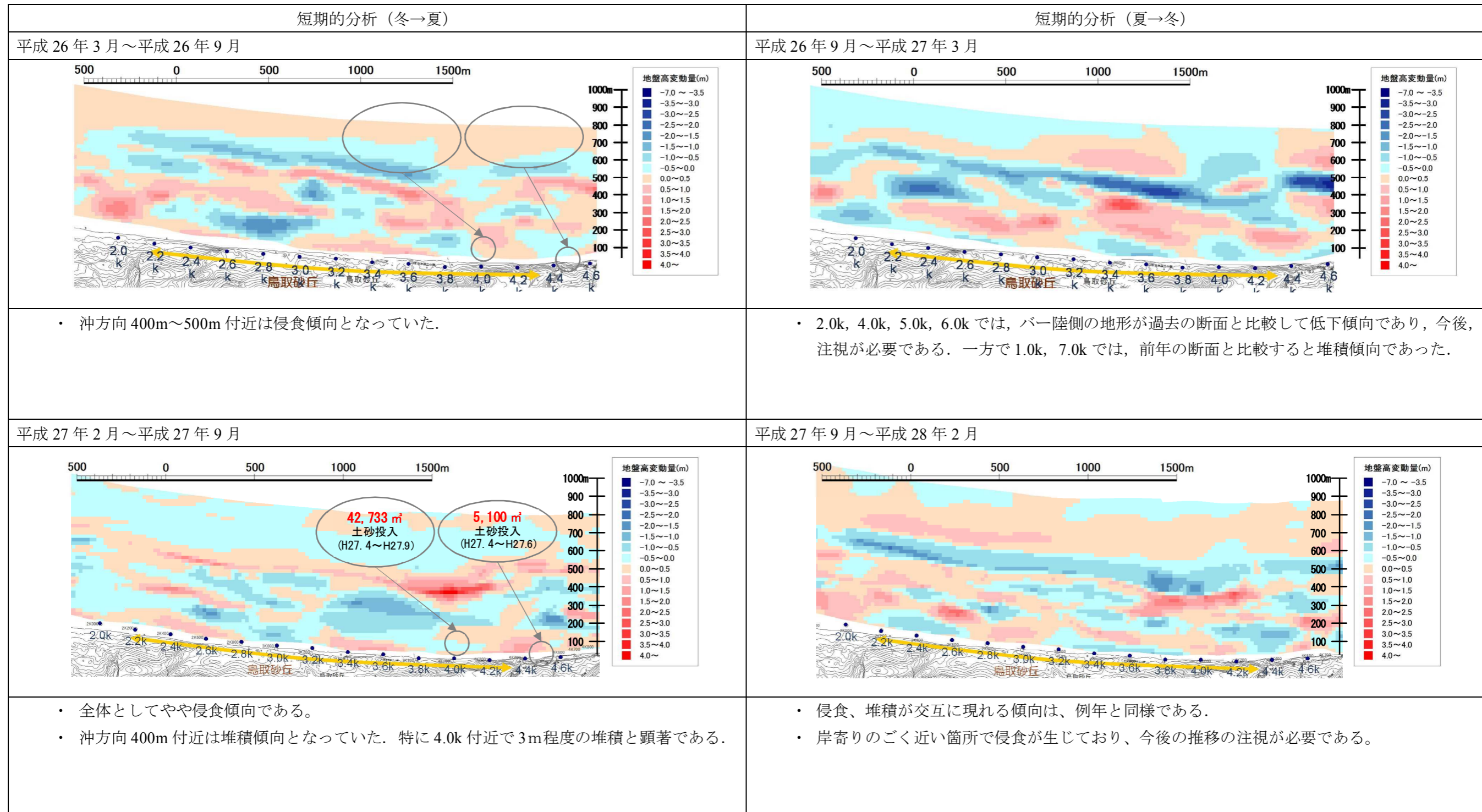


図 4.3.14 標高差分図

※参考までに、標高差分図の作成時に使用した等深線データを以下に示す。

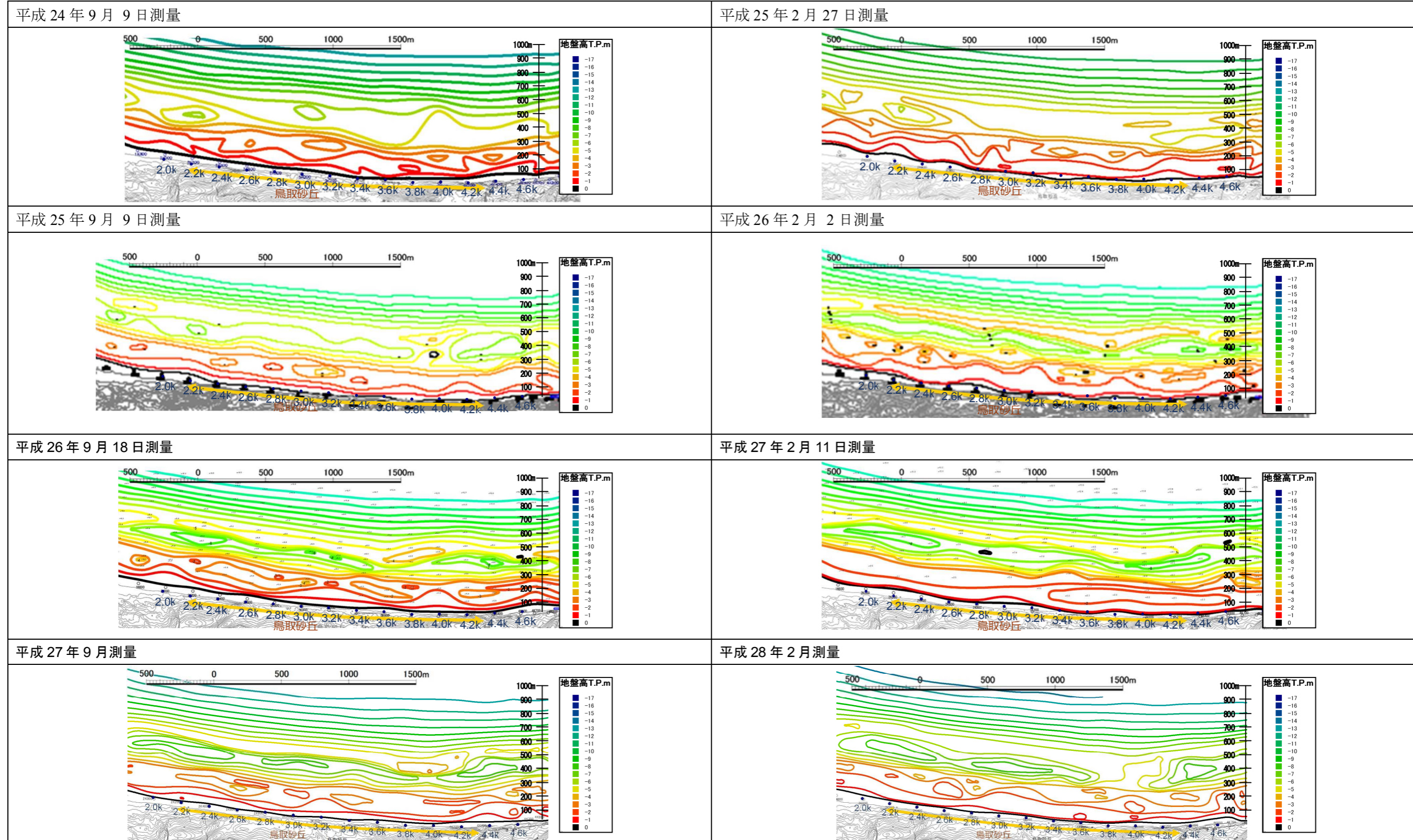


図 4.3.15 等深線図

4.3.4 浜幅分析

(1) 概要

当浜幅分析は、前述の分析が『ある年度の汀線を基準とした相対的な評価』に対し、『浜幅の絶対量を示しその変動を評価』するものである。本分析では、浜幅の目安を、『防護』『利用』から設定をしており、防護面については打上げ高計算より25m、利用面については海水浴利用の観点から40mに浜幅を設定し、評価を行っている。

(2) 千代川右岸漂砂系における浜幅の検討

- ・比較的整備から期間が経っていない6号人工リーフ背面、および未整備である8号人工リーフ背面については、防護基準を満たしていないことから、注視していく必要がある。
- ・また、上記箇所においては夏に海水浴場として使用される箇所であるため、利用面の浜幅確保(40m)が望まれる。

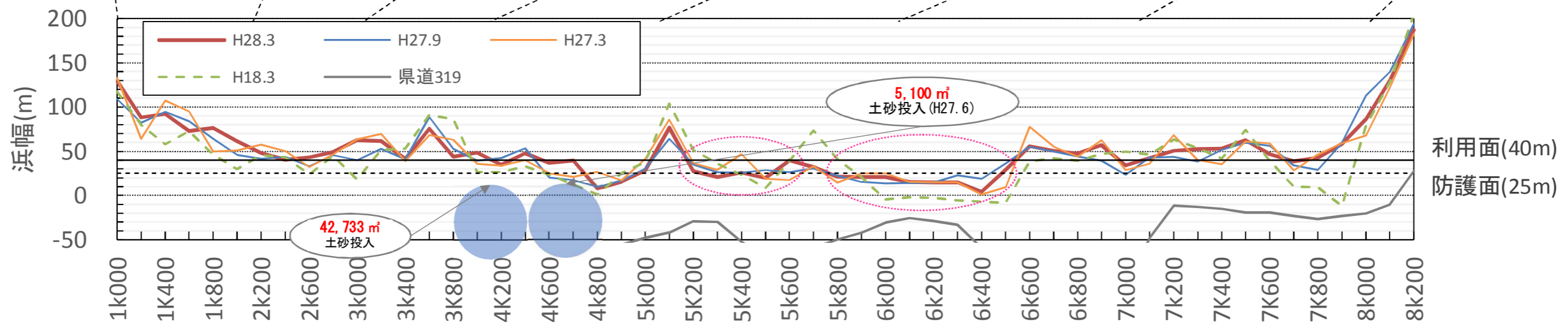
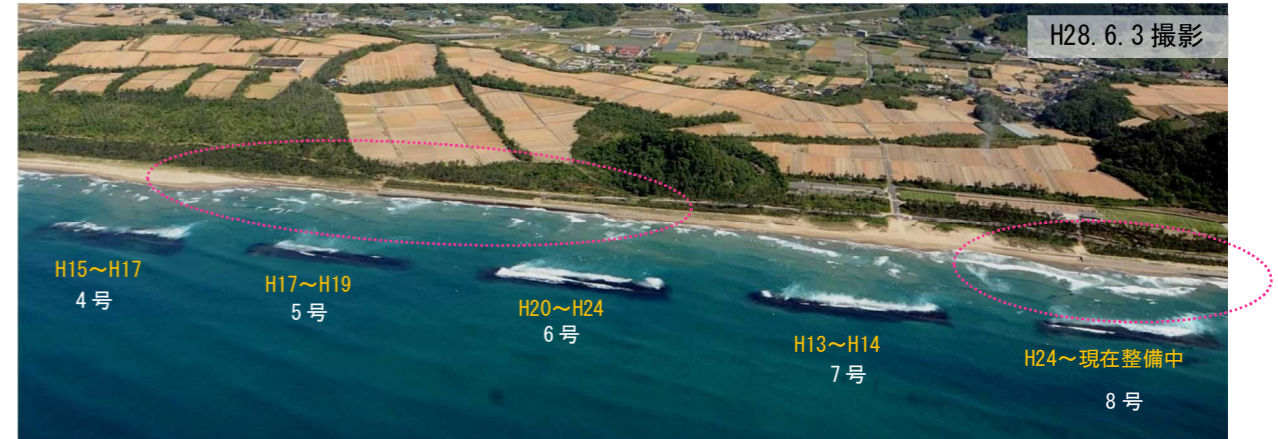


図 4.3.16 現況の砂浜幅 (鳥取砂丘前面)

4.4 問題点および今後の方針

- ・ 短期的に大きな変化は見られないが、人工リーフ未整備区間、鳥取砂丘東側区間において、侵食傾向がみられるため、サンドリサイクル等による養浜を継続的に実施していく。
- ・ また上記への直接的な解決策として、人工リーフの早期整備を進めて行く。

4.5 測線毎の汀線経年変化（参考資料）

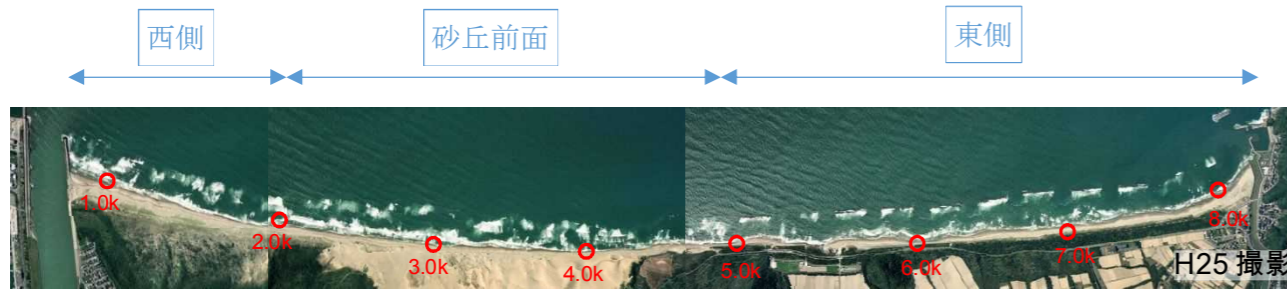


図 4.5.1 測量基点の位置（千代川右岸漂砂系）

表 4.4.1 千代川右岸漂砂系における汀線変化

年代		H18.3	H18.9	H19.3	H19.9	H20.3	H20.9	H21.3	H21.9	H22.3	H22.9	H23.3	H23.9	H24.3	H24.9	H25.3	H25.9	H26.3	H26.9	H27.3	H27.9	H28.3	
汀線の経年変化	西側																						
	砂丘前面																						
	東側																						
採取場所別土砂投入量	4K500汀線付近																						
	5K000汀線付近																						
海岸保全施設の建設	人工リーフ建設																						
備考	年月日	H18	H19	H19					H21	H22	H22	H23	H23		H24		H25	H26	H26			H27	
	台風	9 / 19 台風13号来襲	7 / 15 台風4号来襲	10 / 27 台風20号来襲(他3個)					10 / 8 台風18号来襲	8 / 12 台風4号来襲	10 / 30 台風14号来襲(他1個)	5 / 30 台風2号来襲(他1個)	9 / 21 台風15号来襲(他1個)		10 / 19 台風21号来襲		10 / 16 台風26号来襲(他5個)	8 / 10 台風11号来襲	10 / 14 台風19号来襲(他1個)			8 / 11 台風13号来襲(他3個)	